ザンビア滞在安全の手引き

在ザンビア日本国大使館

２０２４年７月改訂

目次

１　序言

２　防犯の手引き
（１）当地の治安情勢
　ア　政治的対立
　イ　迷信・デマの流布による地域の不安定化
　ウ　抗議行動
　エ　アジア人に対する犯罪
　オ　経済状況の悪化に伴う治安情勢の悪化
（２）地理的治安の傾向
（３）最近の犯罪発生状況
　ア　犯罪統計
　イ　邦人被害状況
（３）防犯のための具体的注意事項
　ア　住居
　イ　外出時
　ウ　生活
　エ　その他
（４）交通事情
　ア　概要
　イ　対策
　ウ　事故発生時の対応
（５）テロ・誘拐対策
　ア　概要
　イ　日本人・日本権益に対する脅威
　ウ　対策
（６）緊急連絡先

３　在留邦人用緊急事態対処マニュアル
（１）平素の準備と心構え
　ア　概要
　イ　在留届等の提出
　ウ　緊急避難場所
（２）緊急時の行動
　ア　緊急時の連絡要領
　イ　情報の把握と共有
　ウ　身の安全の確保
（３）緊急事態に備えてのチェックリスト

（４）ルサカ防犯マップ

１　序言

ザンビア共和国（以下、ザンビア）は、8 か国と国境を接し、アフリカ大陸の南部に位置する内陸国です。1964 年の独立以降、国内 73 の民族を束ねる必要性という所与の困難に直面しつつ、国家の一体性と平和を維持してきました。周辺国の内戦、南アのアパルトヘイト、ジンバブエの独裁等とは対照的に、初代カウンダ大統領（任期 1964～1991）時代の一党支配からの脱却以降、複数政党制による民主的な選挙に立脚した政府が国政を担っています。

2020年から世界的にパンデミックを引き起こした新型コロナウイルス感染症への対策は、感染予防措置を含めた社会行動規制や水際対策を実施し、相応に国民生活への影響が見られましたが、ロックダウンを実施することなく社会活動を継続し、2022年9月ザンビア全土における感染予防措置の撤廃にいたるまで、治安情勢への大きな影響もありませんでした。

2021年8月、コロナ禍に行われた大統領総選挙では、各政党関係団体による選挙活動の活発化に伴い、全土において政党間の抗争や当地治安当局との衝突が発生し、6名の死者と多数の負傷者が出ましたが、その後平和裡に政権交代が実現しました。

海外で安全な生活を送るため、私たち在留邦人は基本的に自らの安全を自らの手で守らなければなりません。平素からの心掛けと予防策のいかんによっては危険度を軽減することが可能であり、自身だけでなくご家族の安全確保のために安全への配慮を維持して下さい。

このマニュアルが防犯上・危機管理上、皆様の安全対策に多少なりとも役立つことができれば幸いです。

２　防犯の手引き

（１）当地の治安情勢

ザンビアはアフリカの中でも比較的安全な国と言われていますが、100万人当たりの主要な犯罪発生件数を見ると、殺人、強盗等の犯罪発生率は日本よりも高くなっています（下記（３）ア（イ）参照）。邦人がよく利用するショッピングモール等においても窃盗、置き引き、ひったくり、スリ等の一般犯罪や車上荒らし等が起きています。以下に、当国で特に注意すべき治安情勢に影響を与え得る事象について下記に記載いたします。

ア　政治的対立

過去の大統領選挙の際には、選挙期間中に政党間や警察との間で衝突が起きたことが報告されています。2020年12月ルサカ州の高等裁判所付近において、野党党首（当時）の警察出頭に反対するデモの中で起きた発砲事件により男性2名が死亡しています。また、2021年6月コッパーベルト州において、与党（当時）関係者1名が何者かに首をナイフで刺され死亡、6名が負傷しました。選挙活動に伴う治安情勢悪化に際し、軍にも出動命令が出されました。

イ　迷信・デマの流布による地域の不安定化

2019年末から2020年初頭にかけて、コッパーベルト州で起きた3件の殺人が発端となり地域住民による騒動が発生しました。その際、毒ガスが撒かれたという噂が広がり、同種の事件がザンビア各地に広がりました。その後の警察の調査によるとそのような事実はなく、噂が発端となって群集心理により暴徒化した住民が破壊･暴力行為に及んだということが判明しました。事実が判明するまでの間、デマが広がることへの注意が必要であり、当局の公式発表

の内容をよく確認する必要があります。

ウ　抗議活動

2019年10月に抗議活動を行っていた群衆の一部が暴徒化し、当地南アフリカ高等弁務官事務所（日本大使公邸裏側の道に所在）前で車両に放火するなど暴徒化する事件が発生しました。デモ活動から何かのきっかけで暴動に発展し、破壊行動や暴力行為に及ぶおそれがあるので、不用意に近づかないようにする必要があります。

エ　アジア人に対する犯罪

新型コロナウイルス感染症等に起因するアジア人に対する偏見だけでなく、悪感情を抱いているザンビア人も少なからず存在し、それに起因する事件も発生しています。当地ではアジア人は裕福である印象が強いことから犯罪のターゲットになるケースは珍しくなく、多額の現金を携行及び保管する際には特に注意深く行動する必要があります。

オ　経済状況の悪化に伴う治安情勢の悪化

ウクライナ情勢、干ばつ等に伴う物価高騰により貧富の差が拡大し、職を求めて首都ルサカ等の大都市に移動した若年貧困層による犯罪が増加しています。彼らは「ジャンキーズ」と呼称され、組織だったものではなく、安価な違法薬物等を摂取し徒党を組み主に夜間に強盗、誘拐、窃盗などの犯罪行為を行っています。警察も一斉検挙を行うなど対処をしていますが、効果は低調であることから、特に夜間の外出を控える等の着意が必要です。

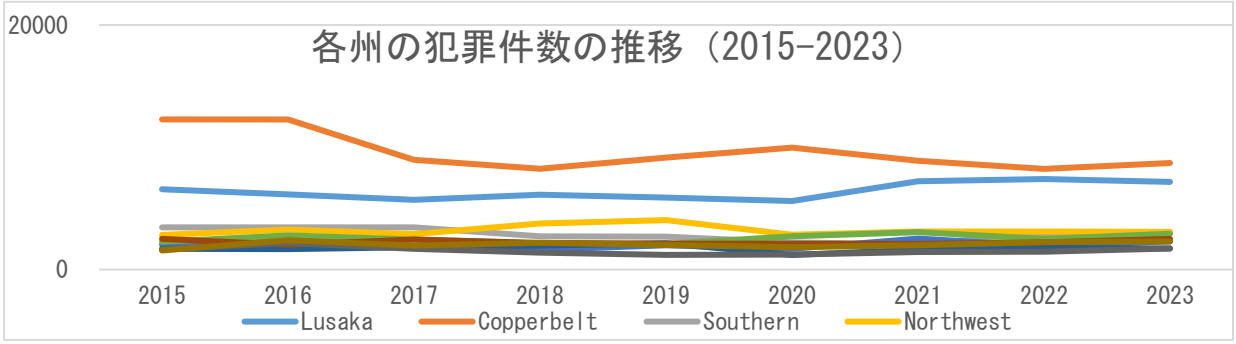
（２）地理的治安の傾向

ルサカ市全般において犯罪発生率は上昇していますが、特にタウン地域（Town）、カムワラ地域（Kamwala）やチボリヤ地域（Chibolya）などの地域は、他の地域に比べても体感治安が急激に悪化します。それら地域に加え、最近ではカブロンガ地域（Kabulonga）など高所得者の居住区域での犯罪の発生件数も増加しており、徒歩移動中に後方から迫ってきた車に鞄を奪われる、ショッピングモールでアジア人男性が所持していた現金を奪われる等の被害が発生しています。また、コンパウンド（Compound）と呼ばれる低所得者居住地域では常時群衆が車道を歩行しており車での通行も困難になります。タウン地域のマーケットは旅行ガイドでも紹介されていますが、身辺には十分な注意が必要です。こうした地域においては、徒歩での移動や夜間の外出において特に注意する必要があり、また、地方都市も基本的に同様の傾向が見られます。

（３）最近の犯罪発生状況

ア　犯罪統計

（ア）年間犯罪件数



100万人当たりの年間犯罪件数を比較すると、2023年は一部の州で前年からの増加傾向が見られます。特に、ルサカ州及びコッパーベルト州は毎年多くの犯罪件数が確認されています。

（イ）100 万人当たりの州別主要犯罪件数（上段は 2023 年、下段は 2022 年）

	殺人	強制性交	車両窃盗	放火	強盗	窃盗	傷害	合計
ルサカ	21	5	14	8	132	2260	2540	4980
	51	16	94	22	237	1958	1585	3963
コッパーベルト	54	24	24	10	36	1065	828	2041
	50	20	24	9	44	1113	950	2210
南部	39	14	13	11	30	582	488	1177
	37	16	24	14	36	942	513	1582
北西部	41	8	6	46	35	691	722	1549
	35	10	12	46	28	698	673	1502
東部	38	8	42	42	93	601	341	1165
	24	8	25	33	57	471	250	868
西部	56	13	12	34	51	479	845	1490
	67	10	0	31	27	373	711	1325
中央部	54	10	20	12	27	414	269	806
	43	8	12	14	30	417	277	801
ルアプラ	20	9	5	36	15	637	603	1325
	36	8	10	29	12	600	466	1161
北部	39	11	3	15	26	377	345	816
	30	8	2	13	23	350	295	721
ムチンガ	103	19	15	54	78	379	406	1054
	110	20	40	36	84	354	354	998
日本	7	22	46	6	11	649	742	1483

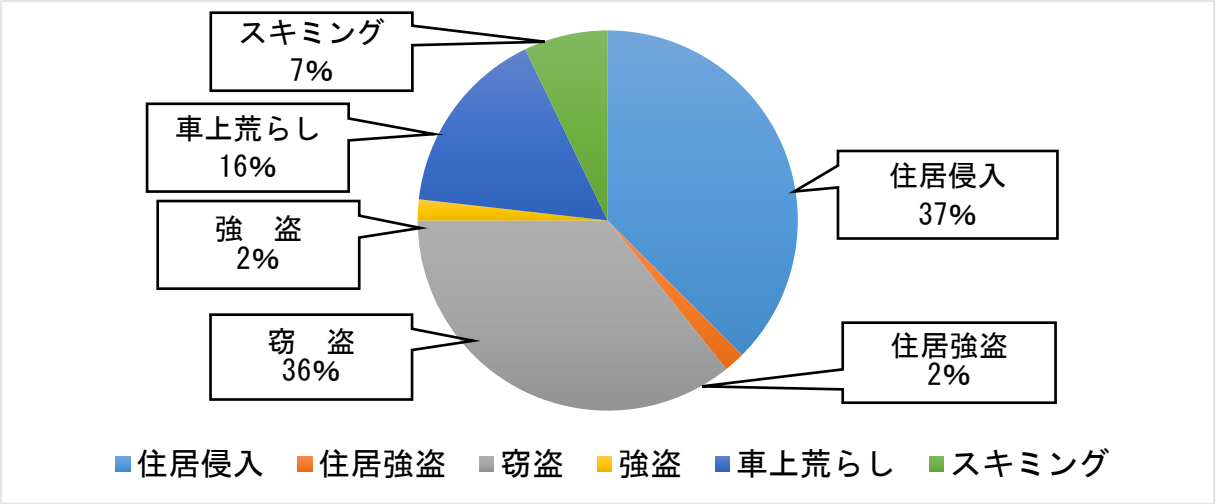
2022年と2023年の主要な犯罪種別発生件数を各州の人口で比較したものです。100万人当たりの犯罪件数では、各州において窃盗及び傷害が特に増加しており、各州の犯罪件数合計では、ルサカ州及び東部州での増加が目立ちます。日本の100万人当たりの主要犯罪件数と比較すると、ザンビアでの殺人、強盗被害などの凶悪犯罪の発生数が顕著です。

州別の犯罪特性としては、ルサカ州では殺人及び強盗被害件数が減少した反面、窃盗及び傷害などの被害が昨年に比して増加の傾向にあります。なお、経済状況の悪化に伴う治安情勢の悪化からか、東部州及び西部州では殺人、強盗などの凶悪犯罪、窃盗及び傷害事件が顕著に増加しており、注意が必要です。その他、地方州では、ムチンガ州、北部州及び中央部州での被害が増加傾向にありますので、ご注意下さい。細部データは、別紙に取りまとめましたので、ご確認下さい。

イ　邦人被害状況

（ア）邦人被害件数一覧表（2018 年～2024 年 6 月）

	住居侵入	住居強盗	窃盗	強盗	車上荒らし	スキミング	合計
件数	21	1	20	1	9	4	56



当館に寄せられた近年の邦人被害は、住居侵入が半分近くを占めており、次いで、スリや置き引きなどの窃盗被害、車上荒らしやスキミング被害も発生しています。また、住居に押し入り、邦人をトイレに押し込めて金品を強奪した事件や邦人が保持していた携帯電話を強奪した事件も報告されています。

（イ）近年の邦人被害状況

a　17時頃、ルサカ州ルサカ市内のショッピングモール駐車場に車両を駐車していたところ、鍵をこじ開けられて後部座席に残置していたバック類を盗まれ、携帯電話、電子手帳等が窃取された。邦人に身体的被害はなし。

b　東部州チパタにおいて、朝から勤務先で勤務していた邦人が16時頃帰宅した際、自宅裏口及びグリルドアの一部が破壊され、寝室の窓に設置されていたバーグラーバーの一部が壊されていた。自宅に入ると寝室以外の部屋は無傷だったが、寝室内の棚に置いていた現金1,500ZMW、100USD及びリュック、洋服数点が窃盗される被害に遭った。邦人に身体的被害はなし。

c　未明にルサカ州の邦人住居において、外出中に引き出しに残置していた財布から現金約7,000ZMWが抜き取られていた。住居には鍵がかかっており、現金以外の被害はなし。メイド及び大家が同住居の鍵を保有していた。邦人に身体的被害はなし。

d　19時頃、ルサカ州ルサカ市当館正面において、不審者4名組の集団がトラック1両で当館前に乗り付け、当館増改築工事のため、関連邦人企業が雇用する謝金警備員のための警備用ボックスを無断で運び出そうとしていたところ、当館門衛所の謝金警備員及び警備会社の緊急対応チームが同集団の活動を阻止した。その後、1名が警察に逮捕され、その他は車両で逃走した。なお、同集団は当地電話会社の社員を名乗っていた。

e　15時頃、ルサカ州ルサカ市レオパーズヒル通りにおいて、邦人が車両を運転中、選挙運動中の政党デモ隊車列（20台ほど）が邦人車両を追い抜く際、デモ隊車両から身を乗り出した関係者1名が車両側面を殴打した。人的・物的被害はなし。

ｆ　20時頃、ルサカ州ルサカ市のターボムベキ通りにおいて、邦人が車両を運転中、信号で停止した際に助手席ドアから現地男性が車内に侵入し、手に持っていた携帯電話を奪われた。邦人に身体的被害はなし。

ｇ　邦人が使用するクレジットカード会社から、「暗証番号の入力ミスにより利用停止した」旨の連絡が入った。邦人自身が暗証番号の入力を失敗した事実はなく、事前にルサカ市カブロンガ地域のセントロモールにあるABSA銀行に設置されているATMで同カードを使用したとのこと。

ｈ　10時頃、ルサカ州ルサカ市ンゴンベ（Ngombe）において、邦人が路上に車両を駐車し、約1時間後に戻ったところ、サイドミラーの鏡部分がなくなっていることに気がついた。邦人に身体的被害はなし。

ｉ　19時頃、ルサカ州ルサカ市ケニヤッタ通りにおいて徒歩移動中、後方より接近してきた車両の後部座席より窃盗犯が身体を乗り出し、たすき掛けしていた被害者のボディバッグを奪ってそのまま車で逃走した。被害者はバッグを奪われる際に引きずられたものの転倒せず、身体的被害はなし。

ｊ　ルサカ州ルサカ市のバーにて友人と飲食していたところ、女性から声をかけられ飲食を共にした。帰宅しようとタクシーに乗り込んだところ、女性がタクシーに乗り込み、話している内に酔いが回り眠りに落ちると女性がバッグを奪おうとし、阻止しようとした友人ともみ合いになりバッグの内容物が散乱し、女性が内容物の旅券及び携帯電話を奪って逃走した。邦人に身体的被害はなし。

ｋ　ルサカ州ルサカ市ロングエイカーズにおいて、朝から勤務先で勤務していた邦人が19時頃帰宅した際、居間に置いていたノートパソコンがなくなっていることに気づき、住居内を点検すると自宅裏口の窓枠、窓の鍵及びトリルドアの鍵が破壊されていた。邦人に身体的被害はなし。

（３）防犯のための具体的注意事項

ア　住居

（ア）犯罪傾向

旅行や一時帰国等で長期不在にする時、ないし就寝中に住居に侵入され、現金、貴重品などを盗まれることがあります。また、敷地内の使用人や警備員が犯罪者を指南して、共同で犯行を行う事例も報告されています。

（イ）対策

①　立地場所

・周辺に治安の悪い場所はないか

・セキュリティ対策は万全か

・警備会社（警備員）は信頼に足りるか

②　家の構造

・外壁は十分な高さ（2.5m程度）があり、有刺鉄線及び電気柵が設置されているか

・敷地内に防犯灯が設置され機能しているか

・窓や扉に堅固なバーグラバーが設置されているか

③　外出・長期不在、就寝時

・カーテン等で室内を暴露しない、貴重品を外から見えるところに置かない
・休暇で長期間不在にするという情報を不必要に漏洩しない
・新聞や水等の定期配達を一時停止する

イ　外出時

（ア）犯罪傾向

①　車両窃盗

交差点等での停車時に、開いた窓から車内に手を入れられて、座席に置いてあるバッグや手に持っていた携帯電話を盗まれることがあります。

②　車上荒らし

ショッピングセンターの大型駐車場に駐車中のところ、窓や鍵を壊されて車内からパソコン、携帯電話等の貴重品を奪われることがあります。

（イ）対策

①　車両窃盗

・不必要な夜間の行動は避ける
・減速・停止する前に周囲を確認する
・不審人物、不審車が近くにいる場合は窓の閉鎖、鍵の施錠を確認して、可能であれば停車せずに通り過ぎる

②　車上荒らし

・貴重品を車内の見えるところに置いておかない
・モール入口や監視カメラが設置されているところに駐車する
・鍵の施錠、窓の閉鎖を確実に確認する
・警備員の行動に不審な点がないか気をつける

ウ　生活

（ア）犯罪傾向

ホテルや飲食店で食事中に、椅子の下等にバックを置いていたら盗まれる、又は路上で徒歩移動中に背負っていたリュックから携帯電話や財布を盗まれることがあります。あるいは、同じく歩行中に肩掛けバックをカッター等で切られて財布を盗まれる事例も報告されています。

（イ）対策

・不必要な夜間の行動は避ける
・不必要な貴重品の持ち歩きは避ける
・バックは肌に触れるように携行して周囲に注意を払う

エ　その他

（ア）犯罪傾向

①　タクシー利用時

タクシー乗車後に突然見ず知らずの乗客が乗車し見知らぬところに連れて行かれ、貴重品を奪われた後、女性が強姦被害に遭ったという報告があります。

②　スキミング

空港やショッピングモールに設置されているATMを使用した際、クレジットカード情報を盗まれて、無断でカード決済に使用される可能性があります。

（イ）対策

① タクシー利用時

・政府系タクシー（車体部にオレンジ色の線が入っている）を利用する

・信頼できる人から運転手を紹介してもらう

・運転手情報が管理されているアプリケーション等を利用する

② スキミング

・カード挿入口に不審な装置が設置されていないか

・レジ等でカードを使用する際は目前でカード読込端末を操作させる

・なお、当地の銀行で発行されるデビットカードは設定により取引後にSMSで通知する機能を持つものがあります。

（４）交通事情

ア 概要

当地では公共の場において歩行者、バイクよりも車が優先されることが一般的です。また、当地の運転技量やマナーは低く、無理な追い越しや急停車、逆走、一時不停止や飲酒運転などが横行しています。特にミニバスの運転マナーが悪く、上記のような悪質な走行をすることがあります。また、道路状況は決して良くなく、路面の陥没、バンプが存在したり、事前案内のない工事による車線規制が行われることがあります。

イ 対策

（ア）常に防衛運転に心がけ、自ら事故を起こさないようにする

（イ）整備不良車両やミニバス等から距離を取って走行し、事故に巻き込まれないよう注意する

ウ 事故発生時の対応

（ア）周囲の安全を確認する。周辺に多数の住民が集まり暴徒化する場合は、身の安全確保のために車外に出ない、又は安全な地域（最寄りの警察署等）に避難する

（イ）怪我人がいないか確認して救助する

（ウ）警察に通報する（２（６）緊急連絡先参照）

（エ）相手の氏名、連絡先、免許証番号、保険番号、車のナンバープレートの番号を記録する

（５）テロ・誘拐対策

ア 概要

ザンビアにおいては、テロ組織・反政府組織や国際的なテロ組織の関連組織の活動は確認されていません。しかしながら、周辺国（モザンビーク、ソマリア等）のテロ組織がザンビアに浸透してくる可能性について、治安当局は警戒を強めています。

当地での外国人子女を標的とした誘拐に関し、2021年9月にルサカ州において、12歳と9歳のインド系の女児が使用人（メイド）に誘拐される事件が発生し、2日後にカバナナ・コンパウンド（Kabanana Compound）の借家で無事女児が発見されました。逮捕された使用人は、給料が低くもっとお金が欲しかった旨の供述をしています。過去には、2014年当地ドイツ大使館員子女がドライバーにより営利目的で連れ去られる事件が発生しており十分な注意が必要です。なお、ザンビア人子女を狙った強姦は数件発生しており、2020年2月ムチンガ州において14歳少女が男性4名に集団強姦され、また、同年8月同州において11歳少女

が不審者に強姦の上殺害される事件が発生しています。

イ　日本人・日本権益に対する脅威

現在のところザンビアにおけるテロの脅威は高くなく、また、日本人が標的にされる可能性も高くはありません。しかしながら、偶発的な事件・事故の際の巻き添えとなる可能性は十分に考えられますので右に対応した注意を怠らないことが重要です。一般的に、テロによる日本人の被害は、シリアやアフガニスタンといった渡航中止勧告や退避勧告が発出されている国・地域に限りません。テロは、日本人が数多く渡航する欧米やアジアをはじめとする世界中で発生しており、これまでもチュニジア、ベルギー、バングラデシュ、スリランカ等においてテロによる日本人の被害が確認されています。

近年では、単独犯によるテロや一般市民が多く集まる公共交通機関等（ソフトターゲット）を標的としたテロが頻発するなど、テロの発生を予測し未然に防ぐことがますます困難となっています。

ウ　対策

（ア）海外安全ホームページや報道等により最新の治安情報の入手に努める

（イ）多数の人が集まる場所に近づかない

（ウ）危険な地域や夜間の不要な外出をしない

（エ）不審物は不用意に触らず警察に連絡する

（６）緊急連絡先

連絡先（優先順位）地域	病院名	電話番号
ルサカ	UTH（The University Teaching Hospital）	0955-876164, 0974-318820
	（ザンビア大学付属教育病院）	
	Fairview Hospital	0211-373000, 0950-203159
	（フェアビュー病院）	
	Care for Business Medical Center	0211-254398, 0211-252917
	（ケア・フォー・ビジネス・医療センター）	
	Coptic Hospital	0962-202295, 0211-290508,
	（コプティック病院）	0978-917883
	Dr.Agarwal's Eye Hospital	0211-237560, 0953-489312
	（Dr.アガワル眼科病院）	
	Victoria Hospital	0211-290985, 0955-255798
	（ビクトリア病院）	
	PearliWhyte Dental Solution	0211-220828, 0211-220837,
	（パーリホワイト･デンタルソリューション）	0977-606364
	St.John Paul Ⅱ Mission Orthopaedic Hospital	0211-254601, 0975-206-986
	（聖ヨハネパウロ２世ミッション整形外科病院）	
	Medland Hospital	3111, 0761-101-600,
	（メドランド病院）	0975-177777

	Optimal Medical and Wellness Centre （オプティマル医療・健康センター）	0211-236201, 0962-771859
	Forestpark Specialised Hospital （フォレストパーク専門病院）	0965-273649
リビングストン	Livingstone General Hospital （リビングストン総合病院）	0213-321436, 0213-320221
	SES（Specialty Emergency Services） （専門緊急サービス）	0977-740306

３　在留邦人用緊急事態対処マニュアル

（１）平素の準備と心構え

ア　概要

日頃からご自身や家族の安全に常に注意を払われていることが、犯罪や事件に巻き込まれないための最大の防御術です。緊急事態発生に至っても、まず不断の心構えに立ち返ってください。その上で、大使館との連絡手段の確保、緊急時の行動要領の確認、物の準備（「緊急事態に備えてのチェックリスト」を参照）を確認して下さい。

イ　在留届等の提出

在留届およびたびレジは緊急事態が発生した際、大使館との連絡確保のために極めて重要です。ザンビアに 3 か月以上滞在する方は、オンラインによる在留届電子届出システム（https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html ）を通じて、在ザンビア日本国大使館に「在留届」を提出してください。日本から転居する場合には、住所が決まっていなくても、日本出発の 3 か月前からオンライン提出が可能です。この他、住所その他届出事項に変更が生じたときは「変更届」を、日本への帰国や他国に転居する際には「帰国・転出届」を、在留届電子届出システムを通じて必ず提出してください。

また、在留届の提出義務のない 3 か月未満の短期渡航者の方（海外の在留地から第三国への短期渡航も含む）は、「たびレジ」への登録をお願いします（https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html ）。「たびレジ」は、滞在先の最新の安全情報などを日本語のメールで受け取れる外務省のサービスです。自然災害等が発生し、在ガボン日本国大使館が安否確認を行う際にも利用されます。安全情報の受取先として、家族・同僚等のメールアドレスも追加登録できます。

ウ　緊急避難場所

緊急事態発生時のザンビアにおける邦人の緊急避難場所として大使館、大使公邸及び JICA 事務所があります。詳細は 3（4）ルサカ防犯マップを参照して下さい。

（２）緊急時の行動

ア　緊急時の連絡要領

（ア）安否確認要領

緊急事態が発生した場合は、大使館から安否確認等の連絡をします。この際、当初 SMS 及び e-mail で一斉送信をしますので、必ず家族を含めた安否確認を実施して返信をして

下さい。

（イ）大使館からのラジオ

公共の連絡手段が使用できないおそれがある場合、大使館からの情報伝達手段の一つとしてFMラジオ（大使館から約35km圏内）を使用します。周波数は、100.90MHz、予備周波数が100.00MHz、99.70MHzです。ラジオを準備していただければ役に立つ場合があります。

イ　情報の把握と共有

（ア）大使館が危険性のあるデモ・暴動等に関する情報を入手した場合、迅速に領事メールやフェイスブックにて皆様にお知らせします。

（イ）皆様の方でこうした情報を察知した場合には、速やかに大使館に連絡いただくようお願いします。

ウ　身の安全の確保

（ア）緊急時において、信頼できる情報の入手に努めて下さい。特に当国では不正確な情報やデマが拡散することが多々あるので注意が必要です。

（イ）事態を冷静に把握し、リスクの高い行動を避けて下さい。

（ウ）大使館から情報提供があった場合、要すればその際の伝達事項に従って退避等を検討下さい。

（エ）国内外、市内等の安全な地域（知人宅、ホテル等）へ移動した後は、必ず大使館に安否を連絡下さい。

（３）緊急事態に備えたチェックリスト

項　目	内　容	レ点
旅券	6か月以上の残存有効期限があるか （ない場合は大使館へ再発給の申請をしてください）	
	所持人記入欄の記入	
身分証明書	ＩＤ、外国人登録書、滞在許可証を非常時に持ち出すことができるか	
貴重品	現金（家族全員が10日程度生活できる外貨）	
	貴金属	
	銀行カード	
	クレジットカード（紛失時の連絡先含む）	
自動車等	整備状況は良好か	
	燃料は十分に入っているか	
	懐中電灯・地図・ティッシュ等の備え	
	自動車のない人は近くに住む自動車所有者との連絡態勢は確保されているか。必要なときに同乗できるように相談しているか。	
携行品	衣類・着替え（華美な物は避ける）	
	履き物	
	洗面用具	
	飲料水	

	非常用食料 ※しばらく自宅待機することを想定し、家族が 1 週間から 10 日程度生活できる量を備蓄 ※上記から移動時用物品を選別できるように	
医薬品	家庭用常備薬、外傷薬	
	衛生綿・包帯、絆創膏	
	常時服用している薬（※ある人）	
ラジオ	電池の残量は十分にあるか	
その他	懐中電灯	
	必要な炊事用具	
	マッチ・ろうそく・ライター	
	缶切り・栓抜き	
	予備バッテリー（電池等）	

（４）ルサカ防犯マップ

【在留邦人向け防犯マップ】

・大使館：赤 58

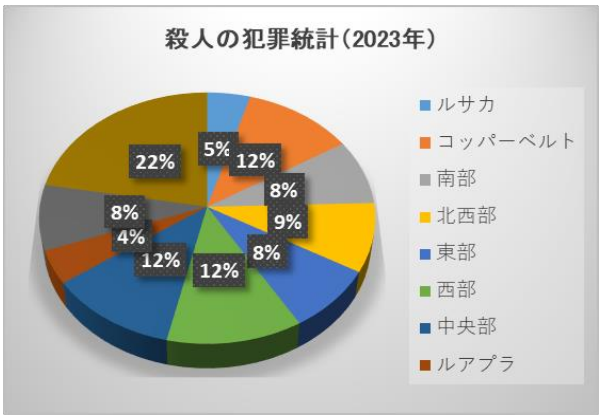
・大使公邸：緑 66

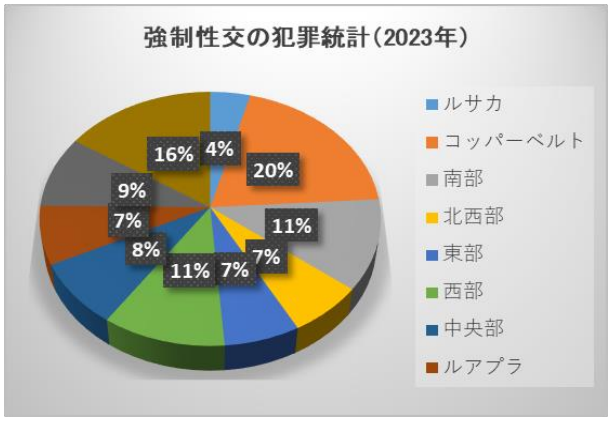
・JICA 事務所：赤 55

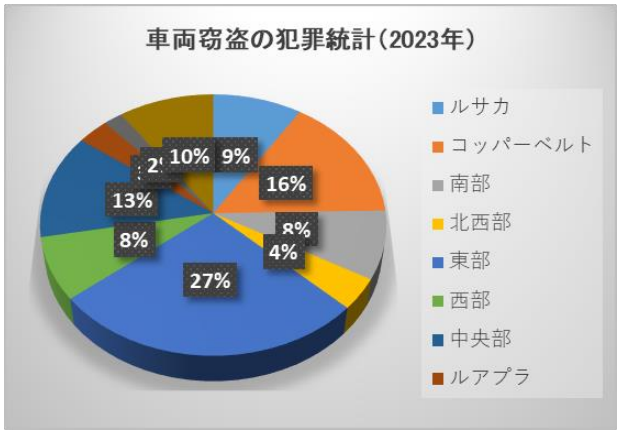
別紙

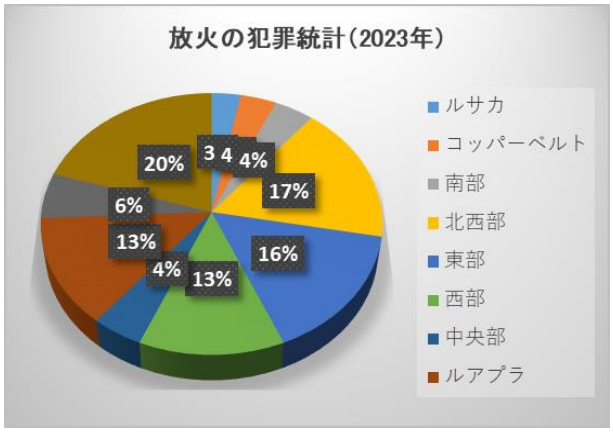
犯罪統計資料

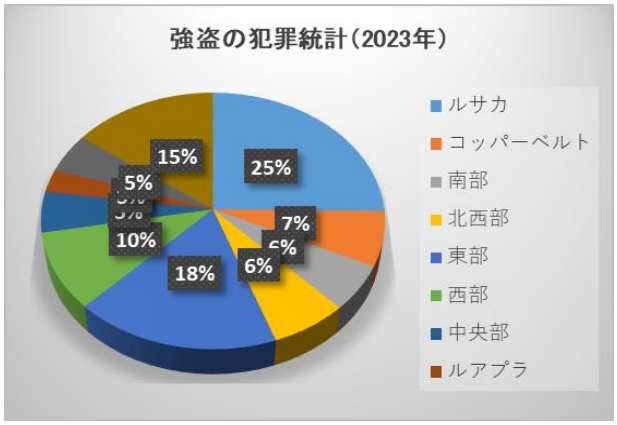
1　犯罪別統計

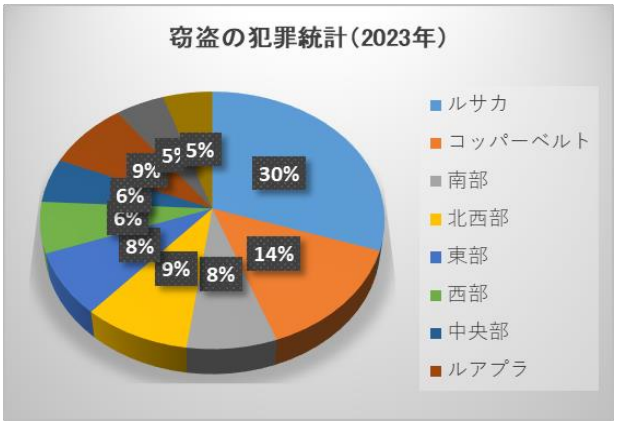


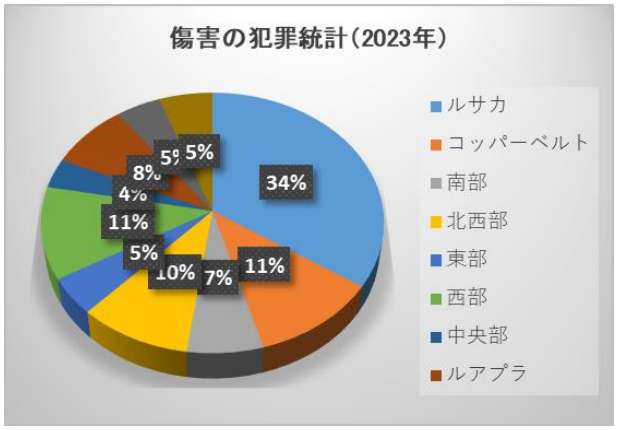




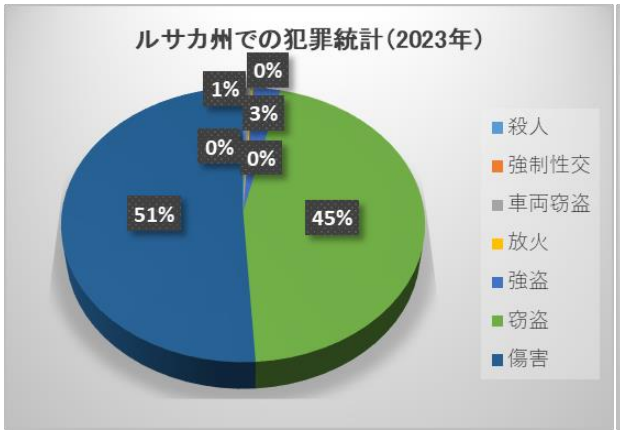


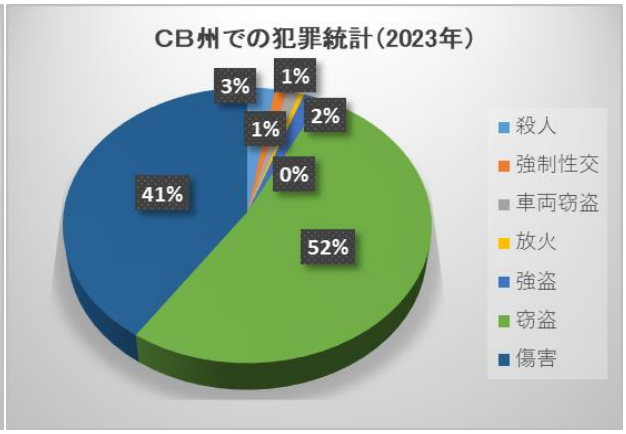


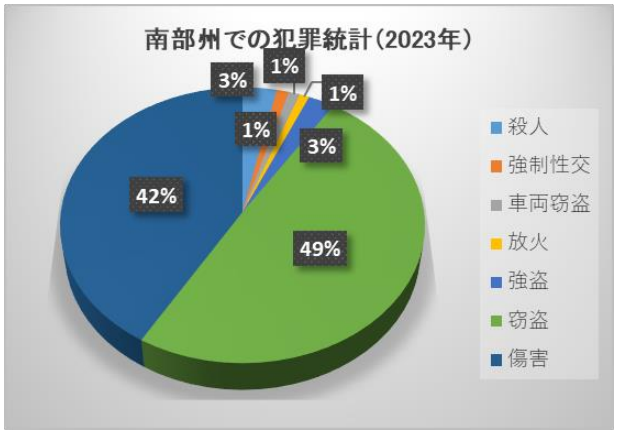


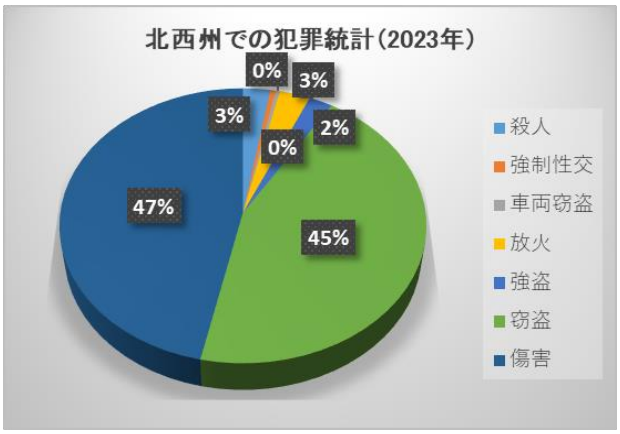


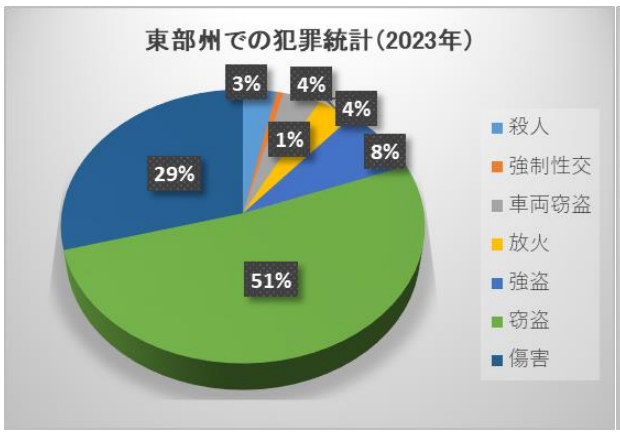
２　州別統計（2023 年）

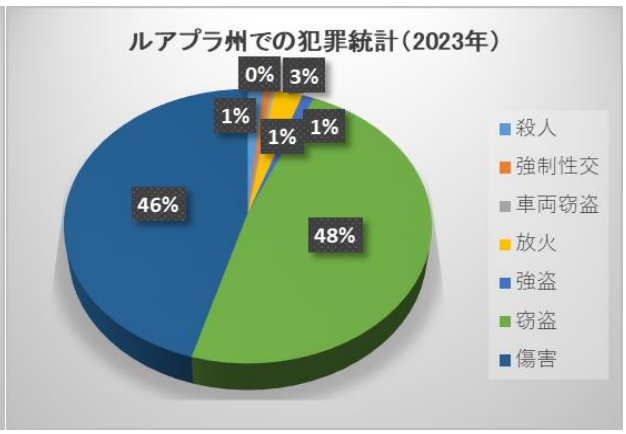

ルサカ州での犯罪統計(2023年)
0%
1%
3%
0%
0%
51%
45%
殺人
強制性交
車両窃盗
放火
強盗
窃盗
傷害

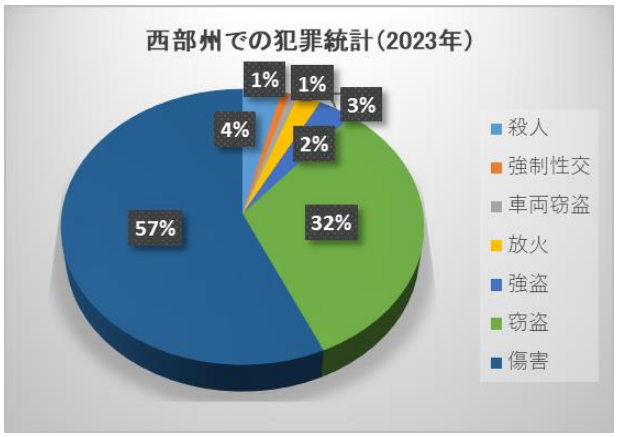

CB州での犯罪統計(2023年)
3%
1%
1%
2%
0%
41%
52%
殺人
強制性交
車両窃盗
放火
強盗
窃盗
傷害

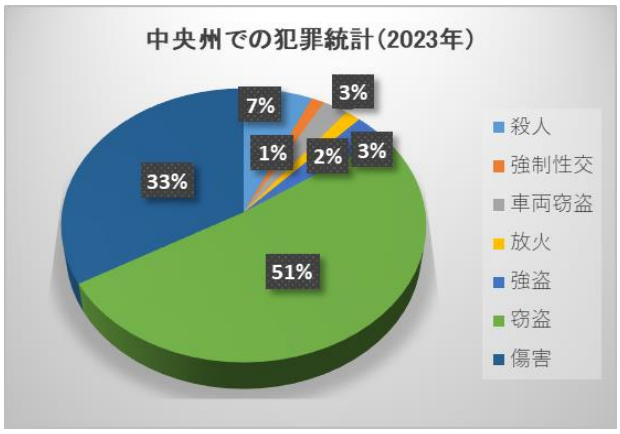

南部州での犯罪統計(2023年)
3%
1%
1%
1%
3%
42%
49%
殺人
強制性交
車両窃盗
放火
強盗
窃盗
傷害

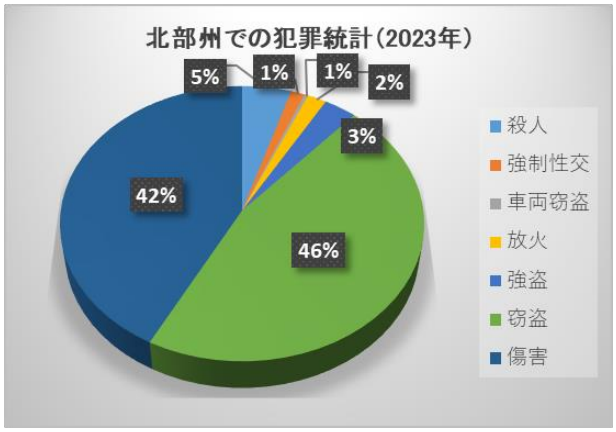

北西州での犯罪統計(2023年)
0%
3%
3%
2%
0%
47%
45%
殺人
強制性交
車両窃盗
放火
強盗
窃盗
傷害

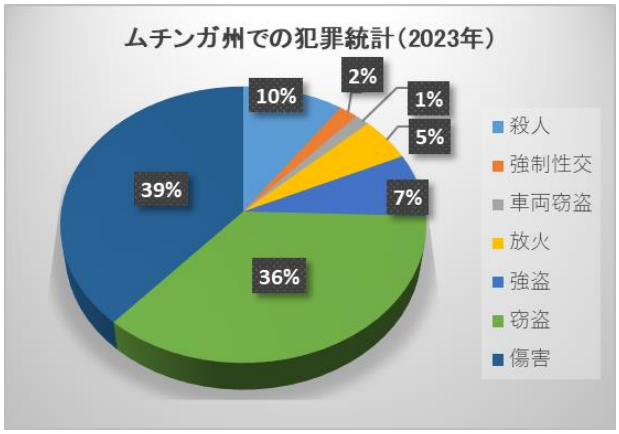

東部州での犯罪統計(2023年)
3%
4%
4%
1%
8%
29%
51%
殺人
強制性交
車両窃盗
放火
強盗
窃盗
傷害


ルアプラ州での犯罪統計(2023年)
0%
3%
1%
1%
1%
46%
48%
殺人
強制性交
車両窃盗
放火
強盗
窃盗
傷害


西部州での犯罪統計(2023年)
1%
1%
3%
4%
2%
57%
32%
殺人
強制性交
車両窃盗
放火
強盗
窃盗
傷害


中央州での犯罪統計(2023年)
7%
3%
1%
2%
3%
33%
51%
殺人
強制性交
車両窃盗
放火
強盗
窃盗
傷害


北部州での犯罪統計（2023年）
5%
1%
1%
2%
3%
42%
46%
殺人
強制性交
車両窃盗
放火
強盗
窃盗
傷害


ムチンガ州での犯罪統計（2023年）
10%
2%
1%
5%
7%
39%
36%
殺人
強制性交
車両窃盗
放火
強盗
窃盗
傷害